

令和元年度 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校 各部重点目標

学校経営の重点【学校教育目標】

- (ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。
- (イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の慎重を目指すとともに一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。
- (ウ) 愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。
- (エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。
- (オ) 豊かな生活体験を通して基本的生活習慣の確立をはかり、幼児自身が直面するであろう障害に基づく困難を乗り越え、自立し社会参加できる将来像へと導く。
- (カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。

自己評価基準 A 達成している ■ B おおむね達成している ■ C あまり達成していない ■ 未記入 ■

学部・分掌	学校経営の重点		評価		
	各部の実践目標	成果と課題	各部評価	校内評価	
保育相談部	(ウ) 愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。				
	聴覚発達質問紙等を使って、幼児の聴覚活用の状況を保護者と一緒に把握し、親子の具体的なコミュニケーションの方法についてアドバイスを行う。	補聴器・人工内耳を装着してからの聴覚活用の発達状況を具体的に把握し、保護者と情報を共有したり、音遊び等の保育に生かしたりすることができた。	A	A	
幼稚園部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。				
	食育や運動遊びに取り組み、幼児期に必要な体づくりをするとともに、異年齢での活動の時間を充実させる。	朝の運動遊びは習慣となり、基礎体力とともに運動能力の向上にもつながっている。今年度は体力測定を実施して検証できた。食育については、食育推進校として、畑で収穫したものを調理したり、ほけんの話で食べ物のはたらきを取り上げることで、食への興味・関心・理解が深まった。食育と体づくりに取り組むことにより、体調不良で欠席する幼児の割合が減ってきている。なかよし遊びと給食時間で異年齢の関わりは持っているが、その関わりを他の時間にも広げていきたい。	A	A	
幼稚園部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の慎重を目指すとともに一人一人のニーズに応じた教育を行う。				
	担任個別、発音個別、リズム個別(5歳児)だけでなく、今年度より聴能個別(5歳児)を実施する。個別の中で観察項目のチェックを行うなど個々の幼児の課題を明確にし、課題に即した個別保育を行う。	個別の中で観察を行うことで、少しずつ課題を明確にしていくことができた。今年度より実施した聴能個別もきこえや補聴器の管理についての課題を保護者と確認することができた。それらの課題に対する支援をよりきめ細やかに行っていきたい。	A	A	
総務部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。				
	幼児にわかりやすく、興味や関心を促せるような文化的活動、自然体験などの体験活動を工夫しながら、学校における儀式、行事等の立案を行う。	各儀式、行事を安全かつ合理的に遂行するための引継ぎ資料の作成が必要である。遠足については、各部の幼児の発達に合わせた調整が引き続き必要である。	B	B	
総務部	兵庫県いじめ防止基本方針にのっとり、幼児の発達段階を見きわめ、いじめについての基本的な認識をはかる。日常の保育の中で、人権意識の萌芽に向けさまざまな教材・教具の工夫を図る。	実社会で勤務している聴覚障害の方を講師に招き人権研修を行い、各職員の人権意識の向上を図った。	B	B	
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の慎重を目指すとともに一人一人のニーズに応じた教育を行う。				
教務部	小学校学習指導要領等に道徳科が位置付けられ、幼稚園教育要領では「幼児期の終わりに育ってほしい姿」の中に、「道徳性・規範意識の芽生え」が挙げられている。そこで、幼稚園において教師が意識して指導できるように、実態に即した道徳教育全体計画を作成する。	県の道徳教育実践研修を受け、校内で研修を実施した。幼稚園教育要領の「幼児期の終わりに育ってほしい姿」の「道徳性・規範意識の芽生え」等に基づき『道徳教育全体計画』を作成した。次年度より教育課程に位置付け、今後より意識をし取り組んでいく。	B	B	

相談センター部	(カ) 地域におけるセンター的機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する				
	早期に診断を受けた乳幼児の聴覚活用の発達を評価し、それに基づいた音遊びなどの具体的な支援内容を検討し行う。	乳児の聴覚発達質問紙等を用いて、定期的に聴性行動反応や聞こえの発達段階を確認した。保護者に質問項目の内容やその意味を説明することで保護者の聴覚発達への理解を促し、具体的な関わり方や遊び方の助言を行う際の参考となった。	B	B	
研究部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に合理的な配慮をしながら、一人一人のニーズに応じた教育を行い、幼児の個性と能力の伸長を目指す。				
	全学年で研究授業を行ったり、ビデオを録って保育事例を協議したりする。子どもの発達に合わせた保育内容の進め方や、教師の働きかけや支援のあり方などについて協議し、指導力や専門性を高める。	各学年の子どもの実態や発達に合わせた具体的な保育の方法について、学ぶことができた。さらに専門性を高め保育で活かせるように、研究の進め方を検討したい。	B	B	
	(ウ) 愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。				
	保護者がより具体的に子どもの将来像を見据えられるように、保護者全員を対象とした研修の機会を増やす。研修を通して、幼児期の子どもの発達理解や進路について考えたり、より良い親子関係が築いたりできるように支援する。	保護者全員を対象とした研修機会を増やしたことで、早期からより具体的に子どもの将来像や進路について考えることができた。研修の時期や回数については検討したい。	A	A	
生活・保健部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の総合的な発達を促すための教育的支援を行う。				
	望ましい食習慣の形成を目指し、幼児の食に関する興味や関心を育てるため、季節や行事に配慮した給食や食に関わる体験的な活動を実施する。	季節ごとの野菜栽培、収穫、調理体験(クッキング)や、竹輪づくり体験等を行ったり、給食を活用して「筍の皮むき、豆のさやむき」等の体験も行った。また、食べ物のはたらきについての話を「はけんのお話」で行ったり、季節や行事に配慮した給食を実施したことで食に関する興味や関心を育てることができた。	A	A	
	幼児玄関に、各クラスの最近の保育場面写真を掲示し、親子で一緒に見て話ができるように活動内容を紹介する場を設ける	各クラスの保育場面の写真とコメントをのせた掲示(毎月2枚程度を更新)を行うことができた。親子で写真を見て話をする様子が見られた。自分のクラスでの経験を振り返るだけでなく、普段は見ることができない他のクラスの保育の様子を知る機会となっていた。今後は掲示の目的について保護者に伝えることを職員で確認するようにしていく。	A	A	
	(オ) 豊かな生活体験を通して基本的な生活習慣の確立をはかり、幼児自身が直面するであろう障害に基づく困難を乗り越え、自立し社会参加できる将来像へと導く。				
	交通安全指導や火災及び地震、引き渡し訓練を通して、事故を未然に防ぐ方法や災害時の適切な行動について、幼児に理解を促す。	災害発生時に幼児、保護者、教職員の安全確保ができるようマニュアルに基づいて訓練を行い、様々な想定の中で適切な避難行動ができるよう取り組んだ。防犯にも力を入れ、警察の方をお呼びして職員の不審者対応訓練を行い、本校の弱点や改善点などを見直した。交通安全教室では、指導員の方に協力して頂き、親子の交通安全への意識を高めるきっかけとなった。また学校安全講習会や防災教育研修会などで得た情報を会議の場で職員に伝え、共有できるようにした。	A	A	
幼児期の健康について(弱視の予防、歯と口の健康、基本的な生活習慣、感染症の予防)学校医、家庭と連携し、幼児の健やかな成長・発育を促す。	学校医の先生方との連携のもと、病気の理解や予防につなげることができた。特に学校歯科医には、「歯磨き指導」により、直接幼児や保護者への指導もお願いし好評であった。「学校保健安全委員会保健講話」として実施した「睡眠」に関する話は、生活習慣を考えると大変参考になったようだ。幼児が、自分のからだに関心を持ち、健康的な生活習慣を身に付けていけるよう、取り組みたい。	A	A		

情報部	(エ)聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。				
	外部ボランティアや職員による絵本の読み聞かせで絵本の楽しさを知らせ、絵本への興味をより広げる。また、季節や行事に関連した絵本や新しく購入した絵本を紹介し、図書室の活用を促す。	読み聞かせでは、2グループのボランティアの参加があり、多くの絵本を楽しむことができた。図書室の積極的な利用も促し、貸出上位者には表彰を行った。	A	A	<p>0 17</p>
情報部	(エ)聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促しつつ、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、幼児が基礎的な言語を獲得できるようにする。				
	幼児が視覚情報を積極的に活用するための資料作り等をスムーズに行えるよう、WORD,EXCELの基本的な操作に関する研修を随時行い、職員のICT活用能力の向上を図る。	操作方法が具体的に分かるようにキャプチャー動画を作成し、各自必要時に研修してもらうことができた。	B	B	<p>2 3 12</p>
自立活動部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の慎重を目指すとともに一人一人のニーズに応じた教育を行う。 (エ) 聴覚学習を通じて子に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報も効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、基礎的な言語の獲得を進める。				
	音環境を整備するとともに、幼児が自身の聞こえや使用している補聴機器について関心を持ち、機器の管理等が自分で行えるよう支援する。	個別指導の時間等を利用し、補聴機器の効果検証を行い、聞こえや機器の管理について話をすることで、幼児のそれらに対する意識の向上につながった。	B	A	<p>7 10</p>
	聴覚を活用しながら、音やリズムを楽しめるよう支援する。また、リズム遊びや運動遊び等を通して身体の発達を促す。	音楽リズムの時間なかよしあそびの時間の中でリズム曲やダンス等、身体をうごかしながら聴覚の活用を促した。	A	A	<p>2 15</p>

令和元年度 学校評価・保護者アンケート

評価5…よくできていた（そう思う）
 評価4…おおむねできていた（大体そう思う）
 評価2…あまりできていなかった（あまりそう思わない）
 評価1…全くできていない（そう思わない）
 ※評価（1～5）のあてはまるところに○を入れてください。

実践分野	具体的な実践内容	評 価
開かれた学校	1 担任から配付される週予定・月予定・お便り等を通して必要な情報を得ることができ、学校生活の様子がよくわかった。	4.8
幼児教育	2 教育（保育）内容は、生活体験や遊びに基づいており、幼児は生き生きと活動していた。	4.8
食に関する指導 食育	3 幼児が食への関心や知識が高められるように、季節感や行事に配慮した給食（幼稚部）、クッキングなど食に関する体験的な活動が実施されていた。	4.8
生活	4 幼児が季節感を感じ、幼児自身が触ったり動かしやすいう工夫した壁面や装飾が掲示されていた。	4.8
危機管理	5 交通安全指導や各種避難訓練など、幼児が安全安心に過ごせる環境づくりがなされていた。	4.7
健康教育	6 健康な生活、健やかな発育に必要な知識や意識を身につけられるよう、学校医と連携して保健の取り組みがなされていた。	4.9
人権意識	7 教職員は幼児一人一人を大切にし、尊重した言葉がけや対応が見られた。	4.4
保護者研修	8 聴覚障害の理解を深める研修、幼児期の発達理解や聴覚障害児の将来像等の研修、食育の研修など、保護者のニーズに応じた研修が行われた。（保育相談部は学級懇談も含む）	4.7
図書の活用	9 読書活動の充実（絵本の購入、図書室の整理、お便りや掲示板での本の紹介など）が図られ、絵本の読み聞かせなど図書の活用がなされていた。	4.7
特別支援教育 自立活動	10 個に応じてきこえや補聴への支援や助言、補聴機器に関する情報提供があった。	4.7
特別支援教育 自立活動	11 スピーカーやロジャー（補聴援助システム）等を利用するなどして、幼児一人一人の聞こえに配慮した保育がなされていた。	4.7
特別支援教育 自立活動	12 個別保育（発音指導・音楽リズムを含む）は、幼児の課題が明確にされ、保護者にも共有されており、課題解決へ向かう保育がなされていた。	4.8
特別支援教育 個に応じた教育	13 グループ保育や個別保育は、幼児の実態・特性・発達に応じた教材や教具などを工夫して実施されていた。	4.8
評価	14 個別の指導計画に基づいた「あおぞら」や「まなざし」の評価は、適切でわかりやすいものだった。	4.6
特別支援教育 自立活動	15 （保育相談部のみお答えください。） 身近な生物とのふれあいや野菜の収穫等から自然や環境への興味・関心を育てたり、さまざまな音や呼びかけ遊びの中で聴覚活用を促したりする保育に取り組んでいた。	4.8
保育相談部の教育	16 （保育相談部のみお答えください。） 聴覚活用質問紙を使って、補聴器・人工内耳を装着してからの聴覚の発達状況を具体的に把握し、保護者と共有することができた。	3.9
幼稚部の交流活動	17 （幼稚部のみお答えください。） 近隣の保育所、高等学校、老人ホームなどとの交流は充実していた。（宝塚さくら保育園・宝塚高校・舞子高校との交流及び共同学習、アルテンハイムとの地域交流）	4.3
幼稚部の教育	18 （幼稚部のみお答えください。） 花・野菜の栽培と収穫、昆虫の飼育や観察を通して、季節感のある保育、おもちゃや絵本を使った活動などのさまざまな教育（保育）を通し、幼児どうしがやりとりしながら主体的な活動がみられた。	4.7
幼稚部の教育	19 （幼稚部のみお答えください。） 毎朝なかよし遊びの時間を設定し、学年の枠を取り除いて運動遊びやルールのある遊び（鬼ごっこ等）に取り組んだことで、幼児に体力もつき、意欲が出て、他の幼児との関わり方に成長が見られる。	4.6

学校関係者評価より

- ・病院に来られる保護者は情報が少ないので、今後も情報発信を進めて欲しい。こぼとが関係機関に「聞こえの相談」パンフレットを置いたり、西宮市の子育てガイドに掲載されたりしていることは良いと思う。
- ・こぼとの先生の丁寧な対応が素晴らしい。交流を続けていきたい。
- ・先生方の表情が明るく良くなっており、子どもへの指導もめりはりがついている。